

より密接な地域医療連携をめざして

地域医療連携室

Office of Community

だより

2018 VOL. 13

ドクターヘリの運用開始



当院屋上にヘリポートが完成しました。平成30年2月24日(土)に荒井奈良県知事をはじめ、多数の来賓を迎え、竣工式典及び内覧会を行いました。今後は、ドクターヘリの機動的な運用を図っていきます。

ドクターヘリの運用開始に際して

奈良県立医科大学附属病院 救急科 福島英賢



ドクターヘリは2001年より本格的に本邦で導入が開始され、全国的に整備されてきました。従来、奈良県で発生した重症患者さんに対しては、救急隊の判断で和歌山県または大阪府のドクターヘリが要請されていました。しかし自県のヘリではないため、その要請は年間数件にとどまっていた。そこで奈良県にもドクターヘリの導入が検討され、昨年3月21日に全国50機目として運航を開始しました。奈良県ドクターヘリの運営主体は当院で、ドクターヘリの機体は南奈良総合医療センターの屋上ヘリポートに駐機して運航しています。

ドクターヘリは南和や東和地区といった山間僻地から、速やかに患者さんを医療機関へ搬送する手段として期待されています。しかしその強みは搬送手段としてだけでなく、搭乗している医師

と看護師による現場からの早期の医療介入にあります。災害現場で被災した患者さんや1分1秒を争う重症患者さんの救命には、このドクターヘリによる病院到着前からの初期治療と速やかな医療機関への搬送が不可欠です。運航開始時は年間250件の出動予想でありましたが、要請元となる各消防本部としっかりとコミュニケーションをとって運航してきた結果、初年度は予想を大きく上回る389件の出動となり、数多くの重症患者さんの救命に携わることができました。さらに本年2月24日には、基幹災害拠点病院である当院BC棟屋上のヘリポートが完成し、ドクターヘリ搬送症例を受け入れる体制がよりいっそう整いました。

今後ますます奈良県ドクターヘリを活用した質の高い、効果的な救急医療を全県下に提供できるものと考えています。

診療科紹介

小 児 科



●診療科の紹介

奈良県立医科大学小児科学教室は未来を担う子どもたちの健康を守り、また、小児医療に対する多様なニーズに対応するべく教室員一同、日夜診療、教育そして研究に励んでいます。

●診療内容

奈良県立医科大学小児科は小児診療において、一般小児疾患はもとより、血液、腫瘍、循環器、神経、腎臓/膠原病、感染症、内分泌・栄養を重点的専門領域としています。平成23年には小児センターが開設され、現在は奈良県下唯一の24時間体制で高度小児医療を実践する施設として機能しています。

また、新生児集中治療部では、県下唯一の総合周産期母子医療センター認可施設で、ハイリスク新生児（超低出生体重児、小児外科疾患、先天性心疾患など）の診療を行っています。さらに小児救急医療では救急科や麻酔科・ICUと連携して3次救急医療施設としての役割も担っています。また、多数の関連病院と連携して奈良県下や大阪地区の地域小児医療にも貢献しています。

対象疾患

血液（血友病などの凝固異常症）、腫瘍（血液・固形）、循環器（先天性心疾患など）、神経（てんかん、神経筋疾患など）、腎臓、膠原病、感染症、内分泌・栄養

心臓血管外科・呼吸器外科



平素より当科の診療に関してご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。心臓血管外科・呼吸器外科について紹介させていただきます。

●心臓血管外科

超高齢化社会における日本において、動脈硬化を有する患者さんは増加の一途をたどっています。心血管の病気は全身疾患としてとらえなければなりません。そのため心臓に関しては Heart team として循環器内科の先生方と、また血管に関しては放射線科の先生方と十分に検討を重ね多職種の協力を得ながら、個々の患者さんに合った低侵襲で高い質の外科治療を目指しています。

昨今、弁膜症の中でも大動脈弁狭窄症が増加しております。突然死の可能性のある進行性の病気です。従来の変置換に加え、高齢で、frailty が高く手術困難とされていた症例に対し、カテーテルによる弁置換術 (TAVI) を導入しました。より低侵襲な治療を行うことで、幅広い年代の患者さんに対応できるよう努力しております。

手術ができないだろうとあきらめていた心不全や、胸痛を伴う高齢の大動脈弁狭窄症の患者さんにとって福音となるよう努力してまいります。

●呼吸器外科

呼吸器外科では、大学病院であることを生かし、呼吸器内科、放射線科、病理診断科などの関連各科と協調し、質の高い集学的診断・治療を行っています。原発性肺癌、転移性肺腫瘍、気腫性肺疾患、縦隔腫瘍など呼吸器疾患全般について外科診療を行っており、内視鏡 (胸腔鏡) 手術を積極的に適応しています。麻酔科とも協働し、侵襲の少ない手術・痛くない手術を実践し、早期離床、早期退院が可能で、術後在院期間の平均は約5日です。ことに高齢患者さんは術前に社会的背景、身体的・精神的活動性を評価し、手術を行っています。進行肺癌・進行縦隔腫瘍に対しては外科治療、抗がん薬療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を積極的に行っており、隣接臓器の合併切除や気道・血管の再建を伴った手術にも対応しています。

また、肺機能の温存を考慮した肺楔状切除 / 区域切除などの縮小肺切除に対しては、基礎的・臨床的研究に基づいた残存遊離癌細胞を減少せしめる術式で安全に施行しています。

眼科



平素は当科の診療活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

当科では、午前の一般眼科診療に加えて、角膜疾患、網膜疾患、緑内障、神経眼科、小児眼科など多岐にわたる専門領域を、午後に専門外来を設置し診療しています。

滲出型加齢黄斑変性では、VEGF（血管内皮増殖因子）阻害薬を用いた治療が第一選択となり、当科でも多くの患者さんの診療にあたり、水・金曜日の午後を中心に注射を行っています。抗VEGF硝子体注射も、T&E（Treat and Extend）の投与方法で行うことで、良好な長期治療成績を収めることができ、患者さんの来院回数も減少できることから、当科でも木曜日午後に枠を設け、対応してきました。しかし、症例数の増加もあり、対応が困難となってきたため、水・金曜日でもT&E投与ができるように準備しております。また、光干渉断層計（OCT）による画像診断に加え、OCTアンギオグラフィーは、非侵襲的に眼底の血管像の描出が行えるため注目されており、当科でも日常診療に利用しています。

当科では、視覚障害があるため生活に何らかの

支障を来している方に対する専門的なロービジョン外来を平成30年4月より第2および第4金曜日の午後に設置しました。これまで以上に、ロービジョンケアが行える体制となりましたので、お困りの症例や受診を希望される患者さんがいましたら遠慮なくご相談ください。

手術症例も、白内障、緑内障、網膜疾患など多岐にわたり、年間約2000件の手術を行い、日帰り白内障手術にも対応しています。ぶどう膜炎では、前房水採取を行い、PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）検査を行い、確定診断に努めています。

今後、患者ニーズにあった治療を行っていくうえで、近隣の勤務医や開業医の先生方との連携がこれまで以上に重要なものとなってきております。当科としても、近隣の諸先生方に紹介をしていただきやすいような体制づくりを行い、連携の強化を図っていきたいと考えております。診断・治療に困っている症例など、何かありましたら、ご紹介いただけますと幸いです。これからも、当科の診療活動にご理解、ご協力いただきますよう宜しくお願い致します。



ご挨拶

地域医療連携室長補佐 福井靖典

このたび平成30年4月から地域医療連携室長補佐を務めさせていただくことになりました福井です。

当院は特定機能病院として先進医療の提供が求められる中、地域の病院としての地域医療の提供も行っています。病病連携や病診連携を積極的に進める中で、多くの救急患者さんを受け入れ、急性期治療後は紹介元の医療機関への逆紹介など地域医療連携を推進しています。

現在の高齢化社会を踏まえ、地域包括ケアシステムの構築を進める中で、高度急性期から亜急性期までの医療を包括的に提供するには、当院と地域中核病院の双方が果たすべき役割は大きいものであります。そのためにも双方のメリットを活かした新たな連携構築「実効性のあ

る病病連携」が必要であると捉え、その連携強化に向け取り組みを進めているところです。

また、当室では患者さんがスムーズに受診をしていただくため、医療機関からの「初診紹介予約」、入院患者さんが安心して退院していただくまでの「入退院支援」、患者さんの診療を計画的に進める「地域医療連携パスの運用」等を行っており、これらは外来から入退院までの一連の支援を行う重要な業務であり、改善を図りながら取り組んでいるところです。

今後も、地域医療連携に関する様々な方々と連携強化に努めてまいりますので、引き続き、ご指導ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公立大学法人奈良県立医科大学「未来への飛躍」基金

さらなるご支援・ご協力をお願いいたします

今年度より臨床研究中核病院^(※)を目指すため、基金の活用を開始します

ふるさと納税制度の利用により自己負担金 2,000 円でご寄附いただけます

平素より「未来への飛躍」基金に対しご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

お陰様で学業に励む学生にとって頑張りがいのある、能力を存分に発揮できる環境づくりを着実に進めています。

それに加えて、今年度より、本学が目指す臨床研究中核病院に向け、基金を活用していくことといたしました。

次世代のより良質な医療の提供を可能にするためには、一人でも多くの方のお力添えが必要です。

今後とも基金への変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

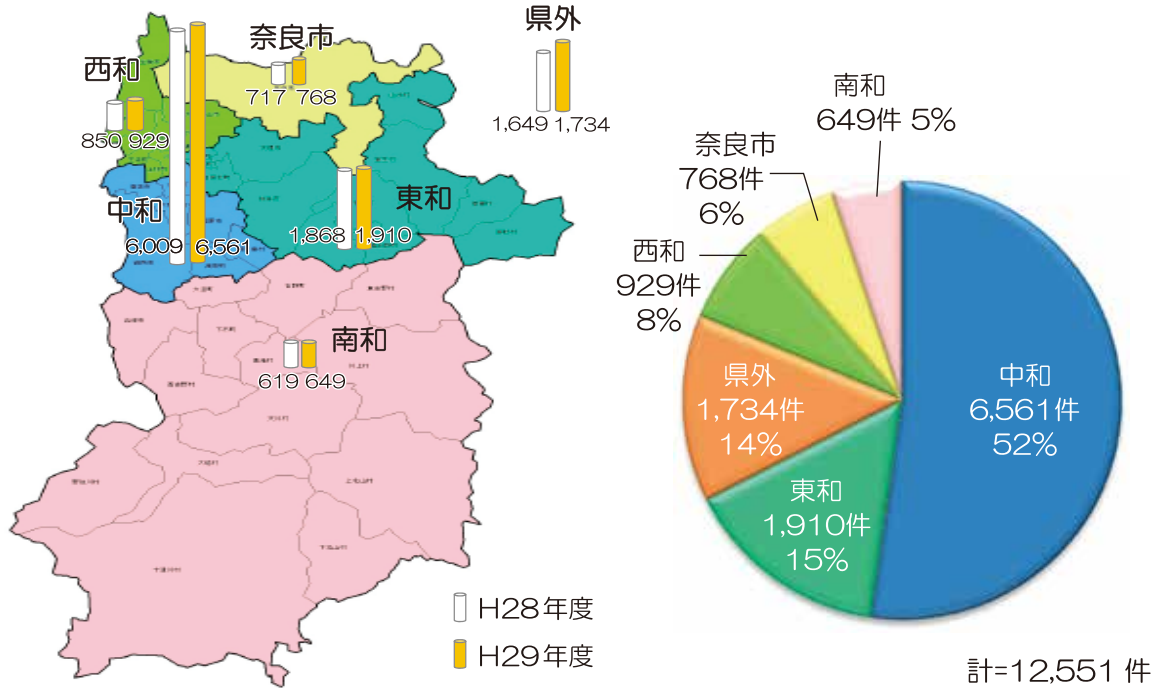
※国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う事ができる病院

奈良県立医科大学総務課基金推進係 TEL: 0744-23-9973 (直通)

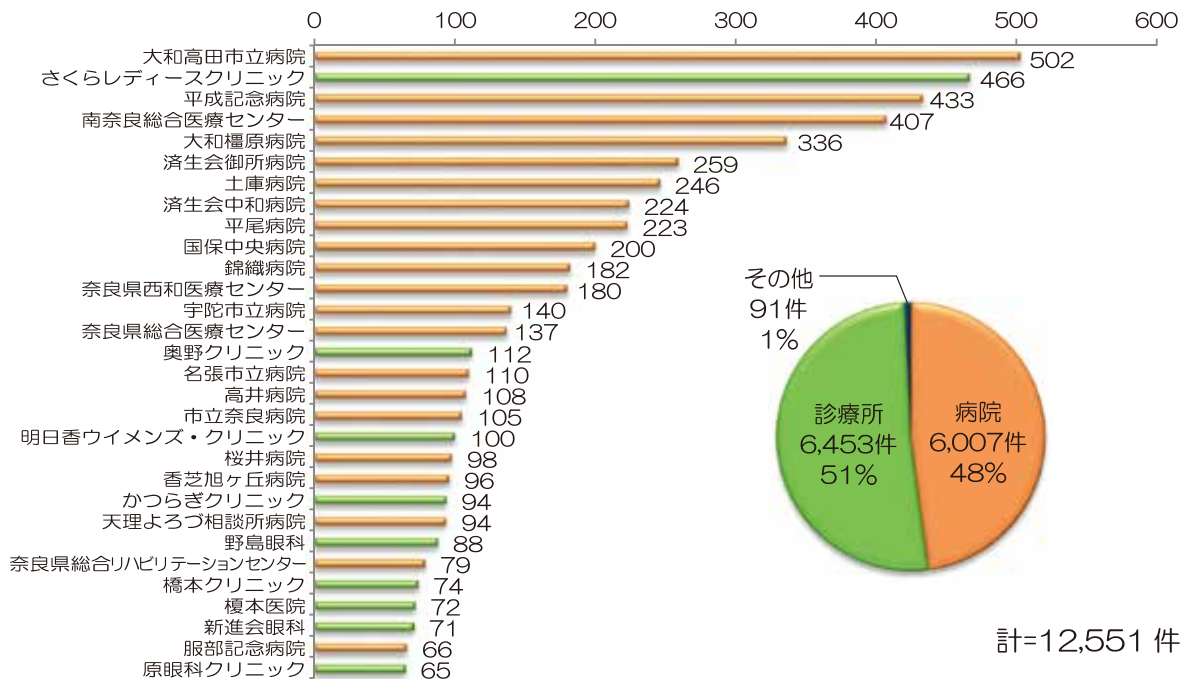
平成29年度実績

初診紹介患者予約実績

初診紹介患者の予約システム利用状況 (紹介元医療機関医療圏別)

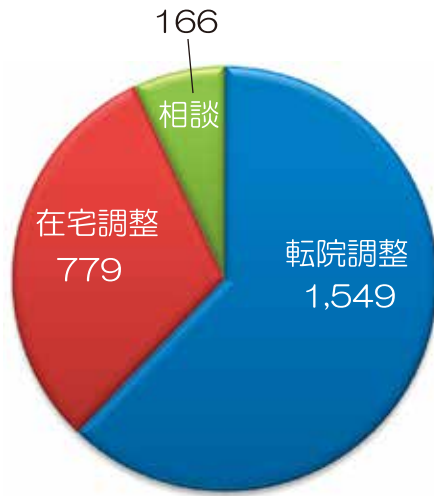


医療機関別 初診紹介患者予約システム利用状況



H 29 年度 退院調整実績

H29年度 退院調整：内訳



計=2,494 件



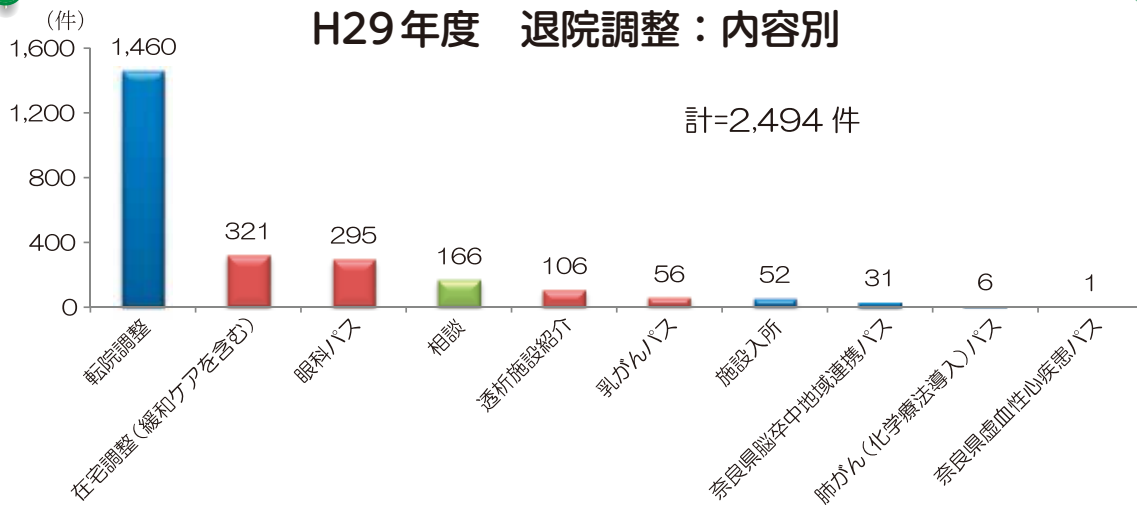
転院調整：転院調整（日程調整）

- 施設入所
- 奈良県脳卒中地域連携パス
- 肺がん（化学療法導入）パス

在宅調整：在宅調整（緩和ケアを含む）

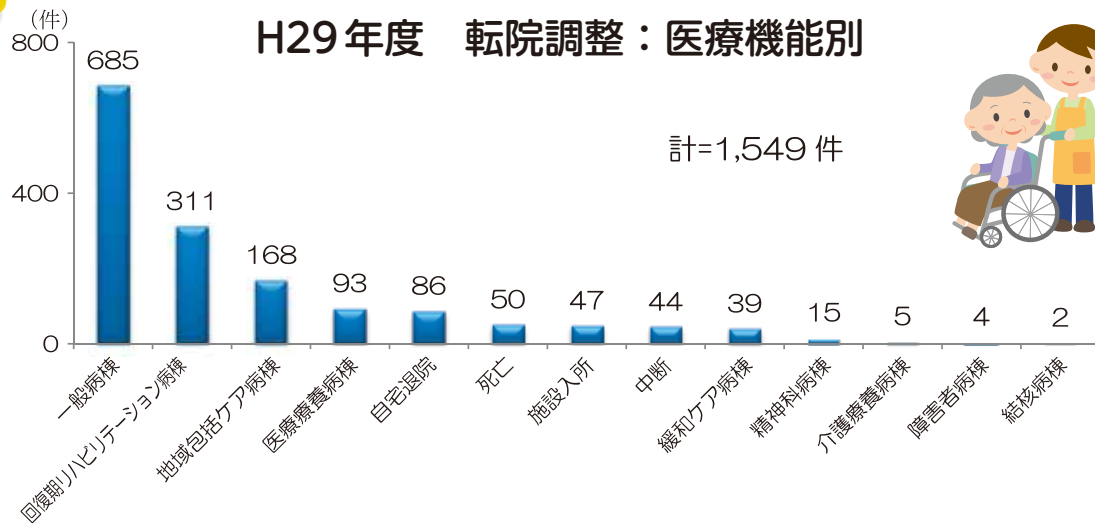
- 眼科パス
- 透析施設紹介・乳がんパス
- 奈良県虚血性心疾患パス

H29年度 退院調整：内容別



計=2,494 件

H29年度 転院調整：医療機能別



計=1,549 件



第13回 地域医療連携懇話会 開催報告

平成30年3月4日(日)午後2時より、奈良県立医科大学大講堂にて、第13回地域医療連携懇話会を開催しました。



『平成30年度の医療介護診療報酬同時改定と地域医療について』をテーマに、奈良県医療政策部長 林修一郎氏にご講演いただきました。

病院、診療所、福祉施設などから、医師、看護師をはじめ、社会福祉士や事務職等の多職種190名が参加し、熱心に耳を傾けていました。

講演後は、奈良県立医科大学附属病院地域医療連携室の吉治室長を座長とし、総括討議を行いました。

参加者それぞれの立場から多くの質問があり、熱心な意見交換がなされました。



参加者の声 (アンケートより)

- 奈良県の考えと同時改定のねらいがわかりました。これから細かい情報をどう見ていくかの大枠ができた気がします。
- 要点を知ること、自分の病院の今後の戦略を考えることができました。
- 早期介入、看取り支援について今回の改定を踏まえ、より充実した支援ができるように取り組んでいきたいと思えます。
- 討論内容でそれぞれの立場の思いが分かって役に立ちました。
- 質疑応答を通して改定部分をより深く知ることができ、今の医療、介護、今後の医療、介護を考える機会となりました。

…その他たくさんのご意見やご感想を頂きました。



ご参加くださいました皆様、ありがとうございました。
次回の開催情報につきましては、ホームページ等で随時ご案内予定です。
どうぞご期待ください。

奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室の体制

平成30年4月より、室長(医師)、室長補佐(事務)、連携コーディネータ(看護師)、看護師6名、社会福祉士8名、事務3名、予約担当5名、受付4名の計29名となりました。

職員一同、業務を通して、皆様方との連携に努めてまいりますので、今後とも、ご協力・ご支援を賜りますようお願いいたします。

奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840

TEL:0744-22-3051(代) / 0744-29-8022(直通) FAX:0744-23-9923

編集・発行 奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室

URL <http://www.named-u.ac.jp/~chiiki/>

発行/2018年5月